

2023年8月4日  
株式会社日本政策金融公庫

## 持ち直しの動きがみられる生活衛生関係営業の景況

生活衛生関係営業の景気動向等調査結果（2023年4～6月期）

（前回）厳しい状況にあるものの持ち直しの動きがみられる生活衛生関係営業の景況

### <業況判断DI>（2ページ）

- 業況判断DIは、前期から46.7ポイント上昇し、20.9となった。
- 来期は9.3ポイント低下し、11.6となる見通し。

### <売上DI>（3ページ）

- 売上DIは、前期から35.9ポイント上昇し、27.3となった。
- 来期は0.6ポイント低下し、26.7となる見通し。

### <採算DI>（4ページ）

- 採算DIは、前期からマイナス幅が25.3ポイント縮小し、▲1.7となった。

### <経営上の問題点>（9、10ページ）

- 経営上の問題点は、「仕入価格・人件費等の上昇を価格に転嫁困難」が57.0%と最も多く、次いで、「顧客数の減少」（39.2%）、「従業員の確保難」（21.5%）の順となった。

※ 11ページ以降に業種ごとの業況判断理由を掲載しています。そのほか、本調査で収集した「経営取り組み事例」を日本公庫ホームページに掲載しています（[https://www.jfc.go.jp/n/findings/seikatu\\_kekka\\_m\\_index.html](https://www.jfc.go.jp/n/findings/seikatu_kekka_m_index.html)）。

### <お問い合わせ先>

日本政策金融公庫 国民生活事業本部 生活衛生融資部 生活衛生情報支援グループ TEL03-3270-1653（担当：守屋、和知）  
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-9-4 大手町フィナンシャルシティ ノースタワー

## 【調査の実施要領】

調査時点	2023年6月中旬			
調査方法	訪問調査			
調査対象	生活衛生関係営業 3,290 企業			
有効回答企業数	3,167企業（回答率 96.3%）			
（業種内訳）	飲食業	1,453 企業	映画館	61 企業
	食肉・食鳥肉販売業	158 企業	ホテル・旅館業	188 企業
	氷雪販売業	56 企業	公衆浴場業	112 企業
	理容業	419 企業	クリーニング業	259 企業
	美容業	461 企業		

## 【本調査における留意事項】

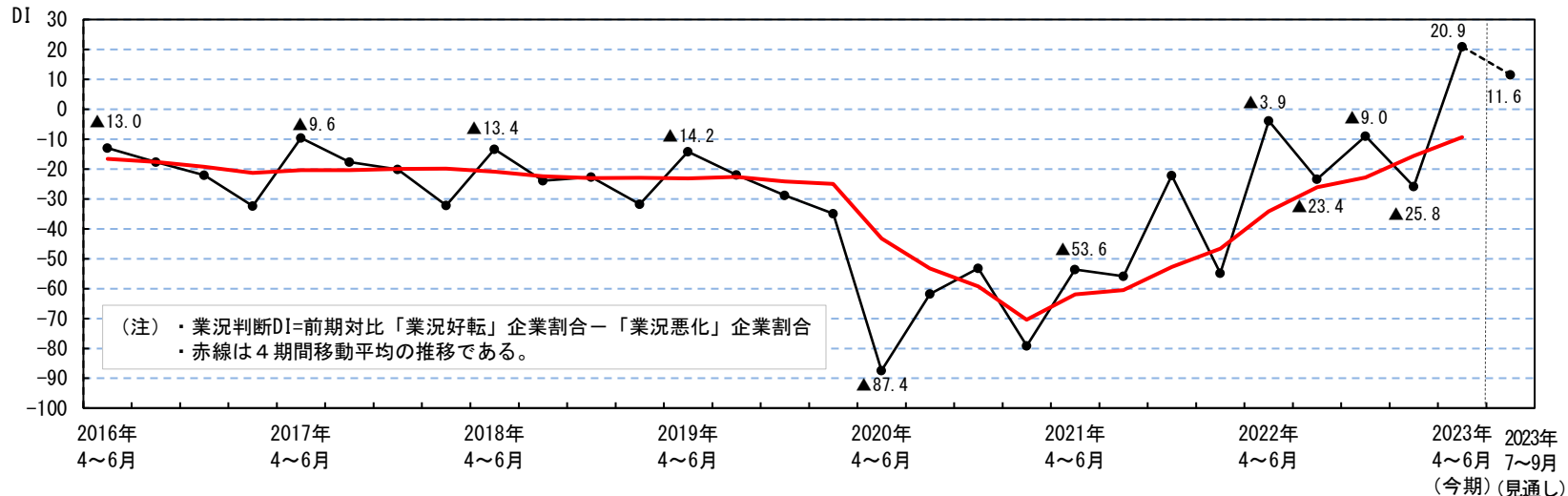
- 2016年4～6月期調査から沖縄県の企業を調査対象に加えている。
- 比率の算出にあたっては、無回答を除いたものを母数としている。

# I 景気の動向

## 1. 業況判断

- 業況判断DIは、前期から46.7ポイント上昇し、20.9となった。
- 来期は9.3ポイント低下し、11.6となる見通し。

図表1 業況判断DIの推移（全業種計）



図表2 業種別 業況判断DIの推移（飲食業を除く）

凡例	2022年 4～6月	2022年 7～9月	2022年 10～12月	2023年 1～3月	2023年 4～6月 (今期)	2023年 7～9月 (見通し)
食肉・食鳥肉	▲ 6.3	▲ 24.3	▲ 6.5	▲ 22.4	15.8	7.0
氷 雪	30.9	31.5	▲ 23.6	▲ 21.8	35.7	37.5
理 容	▲ 17.3	▲ 24.8	▲ 30.2	▲ 36.8	▲ 2.6	2.4
美 容	▲ 15.3	▲ 22.9	▲ 23.4	▲ 33.8	▲ 0.7	3.0
映 画 館	30.6	38.3	9.8	11.3	49.2	18.0
ホテル・旅館	24.6	23.3	50.6	▲ 3.4	58.5	20.7
公衆浴場	▲ 27.1	▲ 30.9	▲ 15.2	▲ 9.1	▲ 2.7	▲ 17.0
クリーニング	14.6	▲ 46.6	▲ 12.9	▲ 52.5	26.6	▲ 20.8

図表3 飲食業 業況判断DIの推移

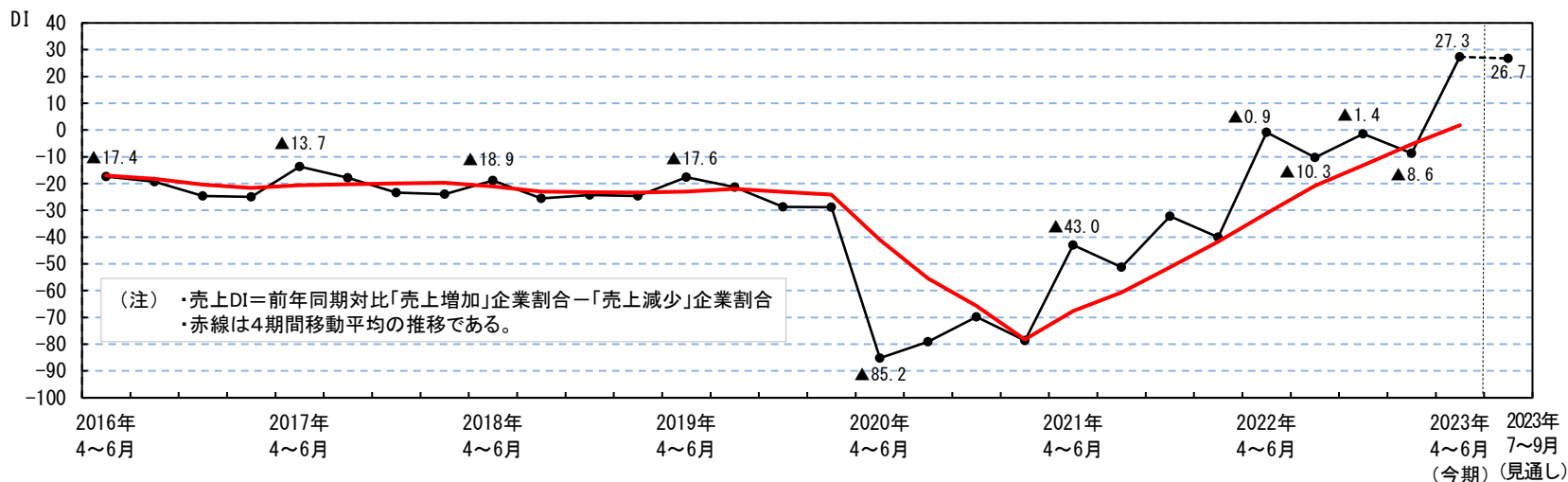
凡例	2022年 4～6月	2022年 7～9月	2022年 10～12月	2023年 1～3月	2023年 4～6月 (今期)	2023年 7～9月 (見通し)
飲食業(全体)	▲ 3.9	▲ 28.7	▲ 4.9	▲ 21.3	29.2	23.0
そば・うどん	2.1	▲ 4.9	▲ 10.1	▲ 23.5	29.8	23.9
中華料理	1.8	▲ 20.6	1.9	▲ 13.8	23.0	24.3
す し	▲ 10.8	▲ 29.7	▲ 6.4	▲ 30.9	24.6	19.7
料 理	▲ 4.7	▲ 39.4	8.3	▲ 13.7	49.2	19.8
喫 茶	4.3	▲ 29.0	▲ 10.3	▲ 7.0	32.9	17.4
社 交	▲ 22.1	▲ 56.0	▲ 27.9	▲ 42.4	13.2	27.8
その他飲食	▲ 0.2	▲ 25.3	4.0	▲ 16.8	33.5	24.1

※ 表中の網掛けは、全業種計の割合を上回るものを表す(以下同じ)。

## 2. 売上

- 売上DIは、前期から35.9ポイント上昇し、27.3となった。
- 来期は0.6ポイント低下し、26.7となる見通し。

図表4 売上DIの推移（全業種計）



図表5 業種別 売上DIの推移（飲食業を除く）

凡例	2022年 4~6月	2022年 7~9月	2022年 10~12月	2023年 1~3月	2023年 4~6月 (今期)	2023年 7~9月 (見通し)
食肉・食鳥肉	3.2	▲ 15.8	0.0	▲ 5.4	24.7	24.1
氷 雪	30.9	40.7	27.3	16.4	46.4	46.4
理 容	▲ 20.6	▲ 22.4	▲ 26.0	▲ 29.9	▲ 1.7	5.3
美 容	▲ 17.3	▲ 23.1	▲ 22.3	▲ 23.9	0.0	6.5
映 画 館	37.1	50.0	27.9	21.0	54.1	37.7
ホテル・旅館	43.2	48.3	62.6	42.0	62.6	47.6
公衆浴場	▲ 9.3	▲ 25.5	▲ 6.3	▲ 6.4	12.5	7.1
クリーニング	0.8	▲ 21.4	▲ 8.7	▲ 34.7	19.3	12.0

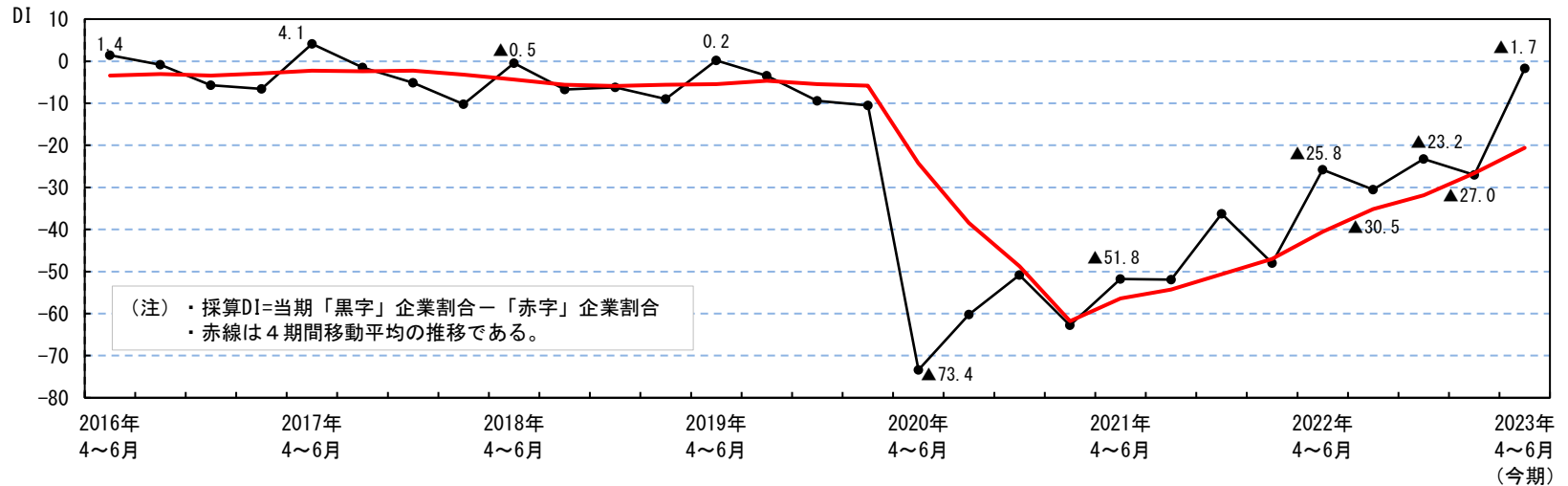
図表6 飲食業 売上DIの推移

凡例	2022年 4~6月	2022年 7~9月	2022年 10~12月	2023年 1~3月	2023年 4~6月 (今期)	2023年 7~9月 (見通し)
飲食業(全体)	1.6	▲ 10.6	3.8	▲ 1.7	40.9	39.9
そば・うどん	5.3	11.5	8.5	▲ 7.1	43.3	36.9
中華料理	7.3	▲ 18.7	6.3	▲ 10.7	36.5	37.8
す し	2.2	▲ 8.6	▲ 1.7	▲ 5.5	40.7	36.3
料 理	▲ 1.6	▲ 13.4	18.0	3.2	63.5	50.8
喫 茶	7.3	▲ 13.7	7.1	5.1	37.7	40.9
社 交	▲ 18.7	▲ 32.2	▲ 15.8	▲ 12.1	25.0	37.3
その他飲食	5.5	▲ 6.1	6.4	6.6	43.5	41.0

### 3. 採算

○ 採算DIは、前期からマイナス幅が25.3ポイント縮小し、▲1.7となった。

図表7 採算DIの推移（全業種計）



図表8 業種別 採算DIの推移（飲食業を除く）

凡例	2022年 4~6月	2022年 7~9月	2022年 10~12月	2023年 1~3月	2023年 4~6月 (今期)
食肉・食鳥肉	▲ 4.4	▲ 19.1	▲ 11.6	▲ 10.9	7.0
氷 雪	▲ 45.5	▲ 29.6	▲ 40.0	▲ 43.6	▲ 5.4
理 容	▲ 12.1	▲ 6.2	▲ 13.4	▲ 14.3	1.4
美 容	▲ 16.2	▲ 18.3	▲ 16.2	▲ 18.1	▲ 0.9
映 画 館	▲ 41.9	▲ 20.0	▲ 26.2	▲ 19.4	4.9
ホテル・旅館	▲ 37.7	▲ 32.8	▲ 2.8	▲ 18.6	12.8
公衆浴場	▲ 3.4	▲ 21.8	▲ 17.0	▲ 9.1	0.9
クリーニング	▲ 6.9	▲ 32.1	▲ 25.1	▲ 45.9	4.2

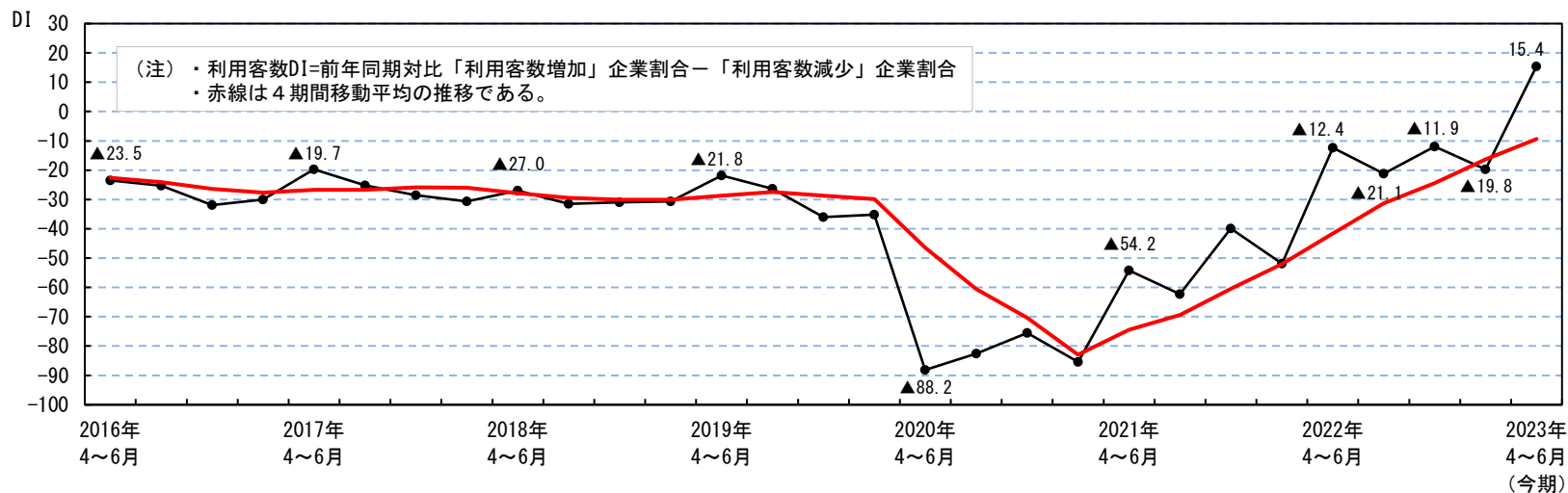
図表9 飲食業 採算DIの推移

凡例	2022年 4~6月	2022年 7~9月	2022年 10~12月	2023年 1~3月	2023年 4~6月 (今期)
飲食業(全体)	▲ 37.3	▲ 43.4	▲ 31.6	▲ 34.1	▲ 7.1
そば・うどん	▲ 15.0	▲ 16.9	▲ 2.6	▲ 25.1	7.4
中華料理	▲ 24.2	▲ 33.5	▲ 23.8	▲ 23.9	▲ 7.4
す し	▲ 32.4	▲ 38.3	▲ 28.3	▲ 29.3	▲ 1.1
料 理	▲ 52.7	▲ 52.8	▲ 42.9	▲ 42.7	▲ 4.8
喫 茶	▲ 30.5	▲ 42.0	▲ 32.7	▲ 31.8	▲ 9.7
社 交	▲ 59.3	▲ 69.0	▲ 57.9	▲ 53.5	▲ 31.2
その他飲食	▲ 41.9	▲ 46.0	▲ 32.7	▲ 32.9	▲ 4.2

#### 4. 利用客数

○ 利用客数DIは、前期から35.2ポイント上昇し、15.4となった。

図表10 利用客数DIの推移（全業種計）



図表11 業種別 利用客数DIの推移（飲食業を除く）

凡例	2022年 4～6月	2022年 7～9月	2022年 10～12月	2023年 1～3月	2023年 4～6月 (今期)
食肉・食鳥肉	▲12.7	▲13.2	▲9.0	▲8.2	1.9
氷雪	▲3.6	11.1	▲1.8	▲5.5	10.7
理容	▲26.3	▲31.7	▲35.7	▲39.7	▲14.4
美容	▲30.1	▲32.1	▲36.0	▲37.8	▲13.2
映画館	29.0	40.0	21.3	12.9	50.8
ホテル・旅館	30.1	43.3	54.7	32.4	56.7
公衆浴場	▲12.7	▲32.7	▲17.9	▲4.5	7.1
クリーニング	▲15.4	▲34.7	▲25.5	▲47.1	▲2.3

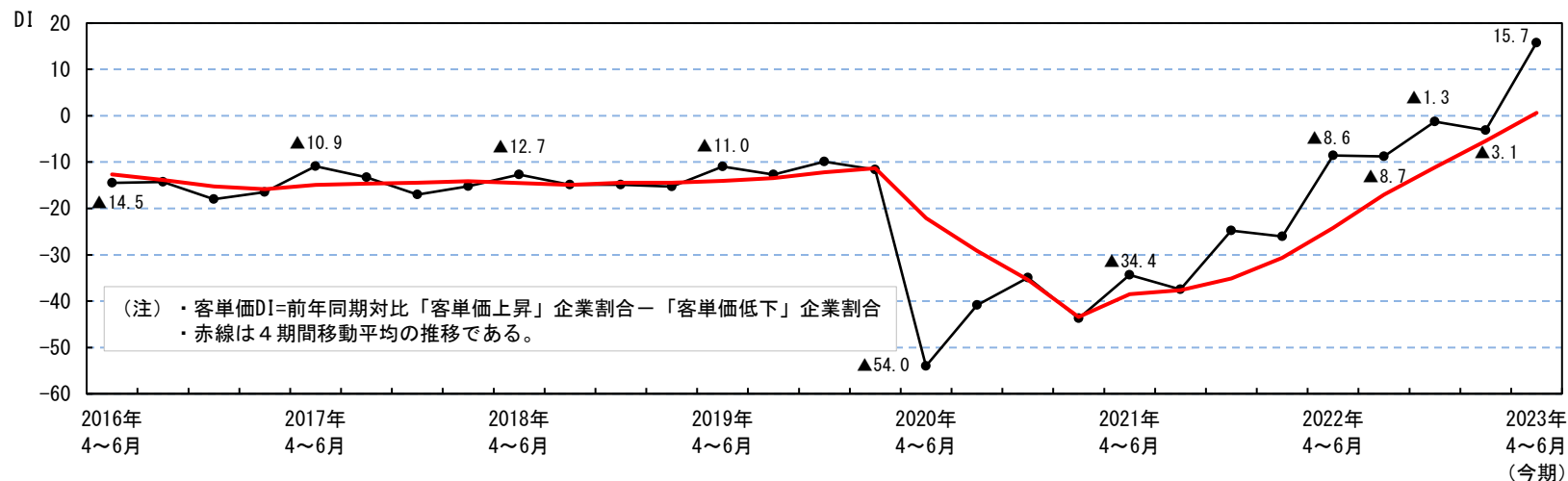
図表12 飲食業 利用客数DIの推移

凡例	2022年 4～6月	2022年 7～9月	2022年 10～12月	2023年 1～3月	2023年 4～6月 (今期)
飲食業(全体)	▲9.6	▲23.8	▲4.6	▲13.8	31.8
そば・うどん	▲3.2	2.7	▲2.6	▲20.8	34.2
中華料理	▲13.3	▲19.4	▲6.9	▲17.6	28.4
すし	▲9.7	▲29.1	▲10.4	▲13.3	30.2
料理	▲8.5	▲23.6	17.3	▲7.3	51.6
喫茶	▲4.3	▲24.2	▲11.6	▲11.5	30.5
社交	▲31.3	▲47.7	▲27.0	▲28.8	13.7
その他飲食	▲3.4	▲23.4	4.0	▲5.4	35.8

## 5. 客単価

○ 客単価DIは、前期から18.8ポイント上昇し、15.7となった。

図表13 客単価DIの推移（全業種計）



図表14 業種別 客単価DIの推移（飲食業を除く）

凡例	2022年 4~6月	2022年 7~9月	2022年 10~12月	2023年 1~3月	2023年 4~6月 (今期)
食肉・食鳥肉	▲ 12.7	▲ 21.7	▲ 7.1	▲ 8.8	9.5
氷 雪	▲ 10.9	▲ 3.7	▲ 12.7	▲ 10.9	0.0
理 容	▲ 15.4	▲ 18.6	▲ 14.9	▲ 16.4	0.7
美 容	▲ 13.4	▲ 10.3	▲ 9.5	▲ 11.0	5.4
映 画 館	▲ 9.7	10.0	3.3	6.5	13.1
ホテル・旅館	9.3	30.9	45.3	33.0	50.8
公衆浴場	▲ 3.4	▲ 4.5	4.5	▲ 1.8	14.3
クリーニング	▲ 9.2	▲ 22.5	▲ 25.1	▲ 31.7	8.5

図表15 飲食業 客単価DIの推移

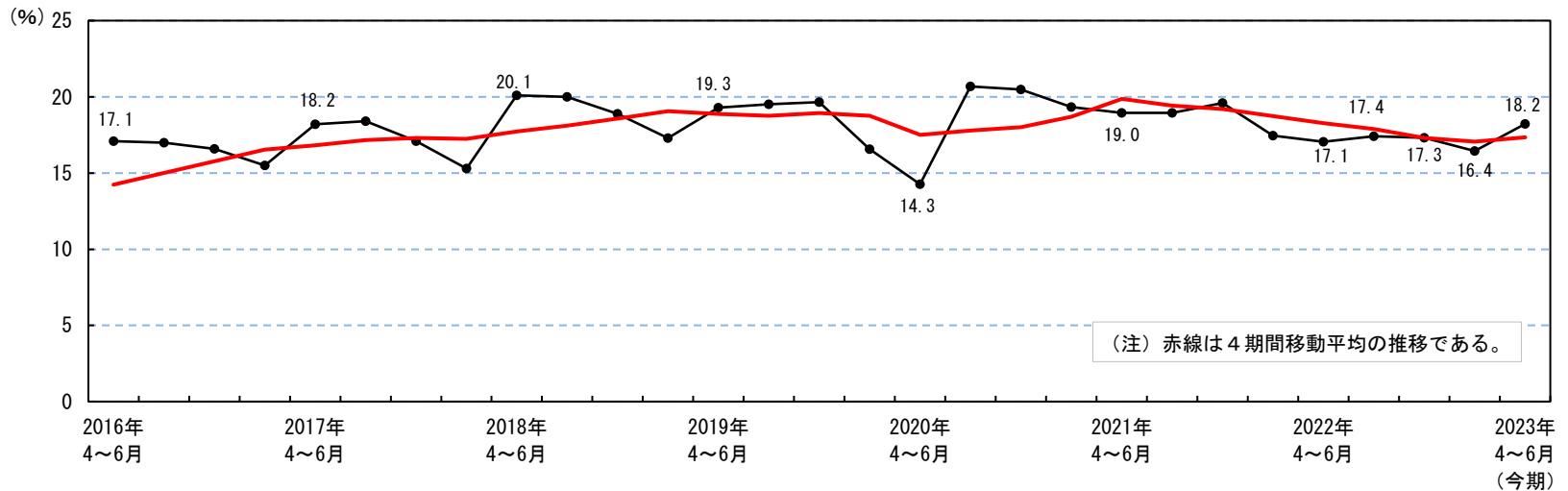
凡例	2022年 4~6月	2022年 7~9月	2022年 10~12月	2023年 1~3月	2023年 4~6月 (今期)
飲食業(全体)	▲ 7.0	▲ 7.7	4.4	4.5	21.6
そば・うどん	▲ 3.7	14.2	10.1	5.5	31.6
中華料理	▲ 12.1	▲ 10.3	▲ 3.8	▲ 8.2	18.2
す し	▲ 12.4	▲ 17.7	2.9	▲ 0.6	19.2
料 理	3.1	▲ 7.1	13.5	8.9	25.4
喫 茶	2.4	▲ 3.7	5.8	12.2	26.0
社 交	▲ 14.6	▲ 19.6	▲ 6.1	▲ 4.0	5.9
その他飲食	▲ 7.3	▲ 8.2	7.1	10.8	24.1

## II 設備投資の動向

### 1. 設備投資の実施状況

○ 今期（2023年4～6月）に設備投資を行った企業の割合は、前期から1.8ポイント上昇し、18.2%となった。

図表16 設備投資実施割合の推移（全業種計）



図表17 業種別 設備投資実施割合の推移（飲食業を除く）

凡例	2022年 4～6月	2022年 7～9月	2022年 10～12月	2023年 1～3月	2023年 4～6月 (今期)
食肉・食鳥肉	27.8	28.3	26.5	23.8	29.1
氷雪	16.4	11.1	21.8	20.0	16.1
理容	9.7	8.3	8.5	6.9	9.3
美容	8.2	10.7	10.6	10.3	12.1
映画館	19.4	23.3	26.2	33.9	32.8
ホテル・旅館	42.1	42.2	42.2	46.3	44.1
公衆浴場	33.9	34.5	41.1	35.5	43.8
クリーニング	15.0	15.3	17.1	21.2	18.9

図表18 飲食業 設備投資実施割合の推移

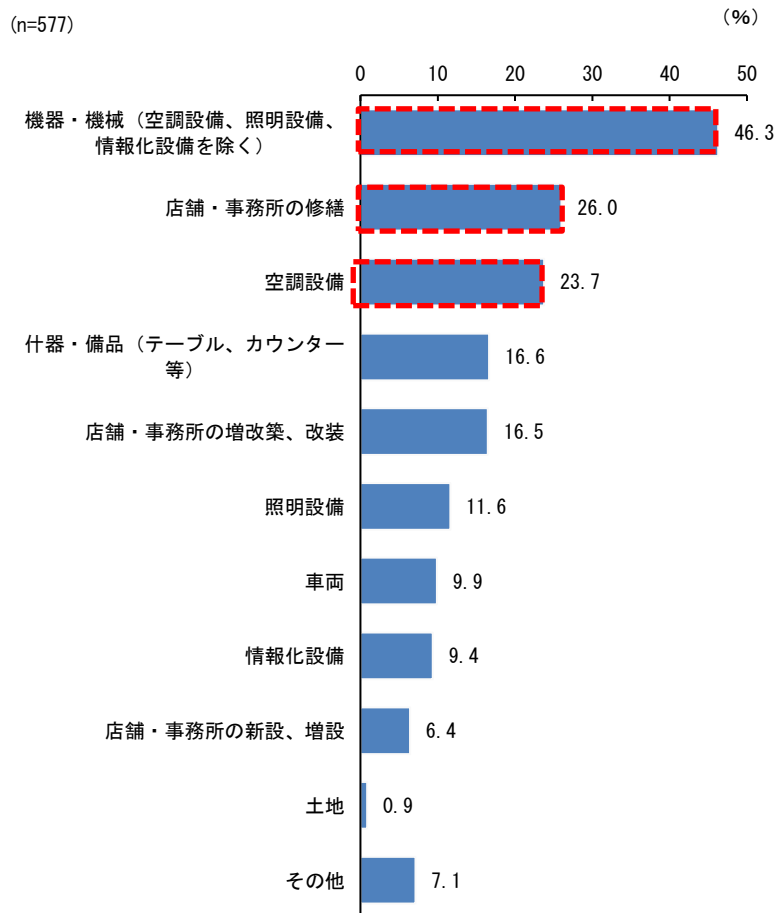
凡例	2022年 4～6月	2022年 7～9月	2022年 10～12月	2023年 1～3月	2023年 4～6月 (今期)
飲食業(全体)	16.6	17.0	15.6	13.6	15.6
そば・うどん	18.7	21.3	16.4	15.8	22.9
中華料理	13.9	18.7	15.6	11.3	14.2
すし	16.2	16.6	15.6	12.7	13.7
料理	26.4	29.1	25.6	21.8	22.2
喫茶	16.5	13.6	11.5	9.6	14.8
社交	7.5	11.5	8.1	6.6	10.7
その他飲食	18.3	15.1	17.1	16.1	14.3



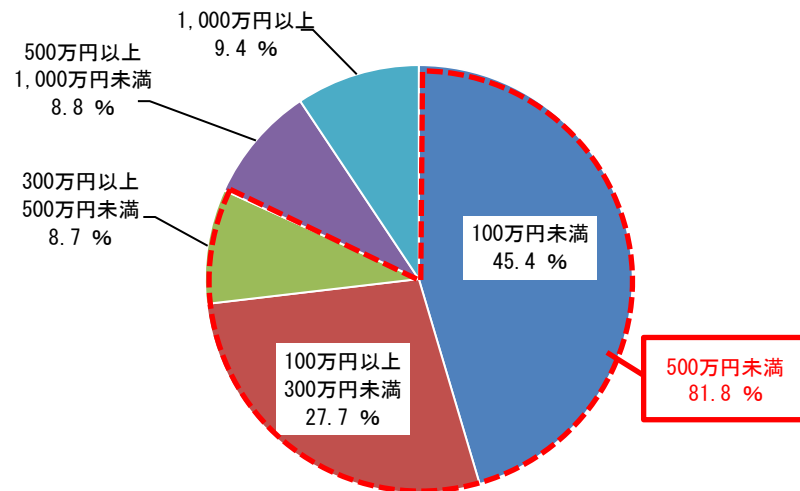
## 2. 設備投資の内容、設備投資金額、来期の設備投資計画

- 今期（2023年4～6月）の設備投資の内容は、「機器・機械（空調設備、照明設備、情報化設備を除く）」が46.3%と最も多く、次いで、「店舗・事務所の修繕」（26.0%）、「空調設備」（23.7%）の順となった。
- 今期の設備投資金額は、500万円未満が全体の8割超を占めた。
- 来期（2023年7～9月）の設備投資計画については、「実施予定あり」が13.3%となった。

図表19 設備投資の内容  
(全業種計、複数回答(金額の大きい順に3つ以内))



図表20 設備投資金額（全業種計）  
(n=577)



図表21 業種別 来期の設備投資実施予定割合  
(飲食業を除く)

凡例	2023年 7～9月期の予定 (%)
全業種計	13.3
食肉・食鳥肉	23.4
氷雪	5.4
理容	6.0
美容	8.7
映画館	27.9
ホテル・旅館	36.7
公衆浴場	24.1
クリーニング	13.1

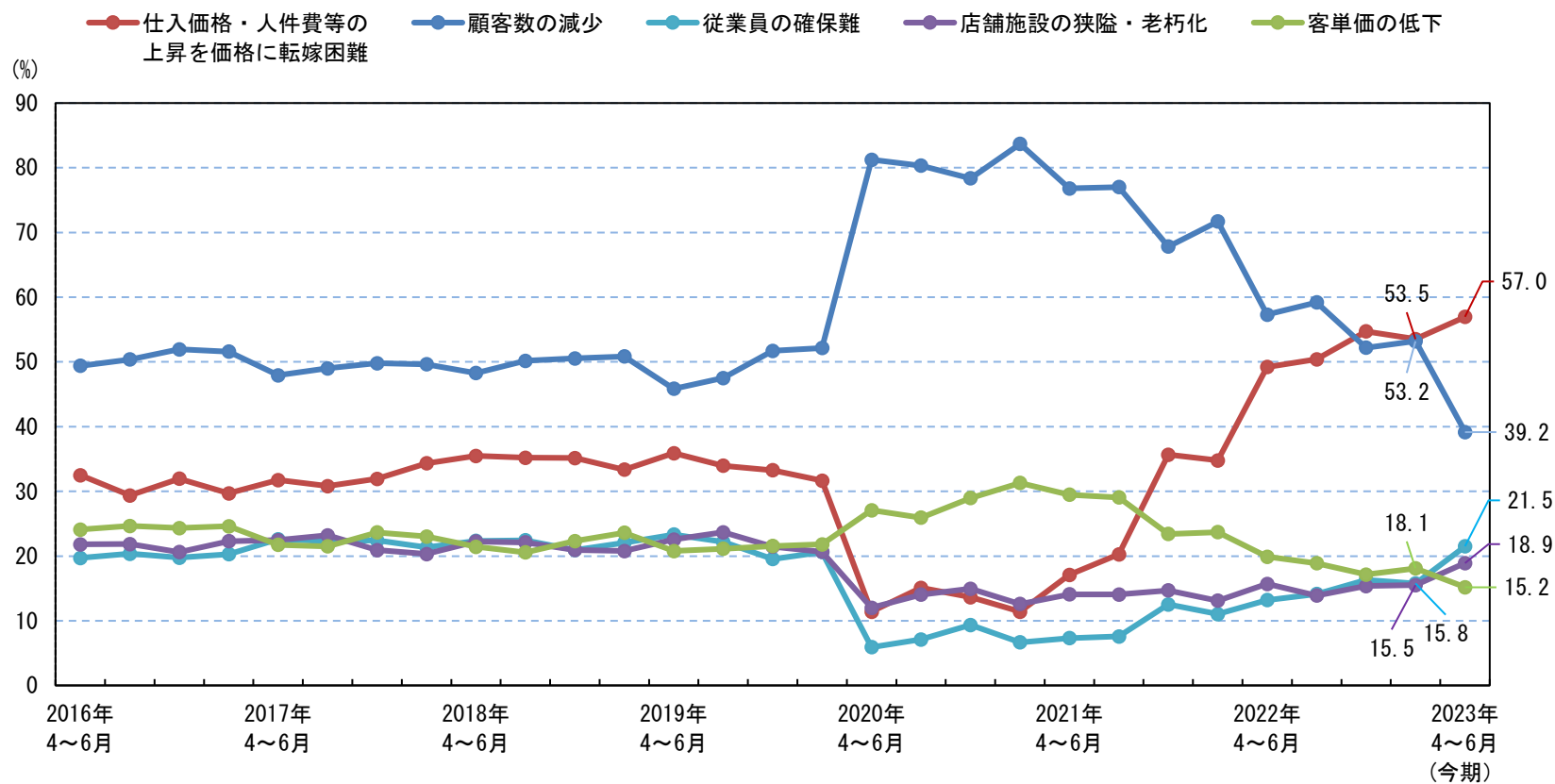
図表22 飲食業 来期の設備投資実施予定割合

凡例	2023年 7～9月期の予定 (%)
飲食業(全体)	11.7
そば・うどん	17.0
中華料理	8.8
すし	11.5
料理	15.1
喫茶	10.3
社交	8.3
その他飲食	11.6

### Ⅲ 経営上の問題点

○ 経営上の問題点は、「仕入価格・人件費等の上昇を価格に転嫁困難」が57.0%と最も多く、次いで、「顧客数の減少」(39.2%)、「従業員の確保難」(21.5%)の順となった。

図表23 主な経営上の問題点の推移（全業種計、複数回答（2つ以内））



図表24 業種別 主な経営上の問題点（2023年4～6月）

(%)

項目	仕入価格・人件費等の上昇を価格に転嫁困難	顧客数の減少	従業員の確保難	店舗施設の狭隘・老朽化	客単価の低下	後継者難	事業資金借入難	その他	特に問題なし
全業種計	57.0	39.2	21.5	18.9	15.2	6.0	3.6	3.6	6.7
飲食業(全体)	71.0	33.7	26.1	14.7	10.9	6.3	4.3	2.8	4.2
そば・うどん	72.3	20.2	28.7	18.1	10.6	10.1	3.2	2.7	5.3
中華料理	70.3	26.4	21.6	20.9	14.2	7.4	2.7	3.4	5.4
すし	65.0	31.7	20.2	12.0	14.2	9.3	4.4	4.9	7.1
料理	73.8	28.6	38.9	19.8	4.0	4.0	7.9	0.0	2.4
喫茶	78.7	32.9	20.0	15.5	9.0	8.4	2.6	1.9	5.2
社交	64.4	63.4	25.4	3.4	11.7	3.4	4.4	3.4	1.5
その他飲食	72.8	30.6	27.7	15.8	10.7	4.2	4.7	2.5	3.6
食肉・食鳥肉	70.3	21.5	25.9	20.9	17.7	6.3	4.4	3.2	3.8
氷雪	51.8	46.4	14.3	10.7	28.6	10.7	0.0	8.9	3.6
理容	35.3	53.0	9.8	17.2	20.3	6.9	1.0	4.3	14.6
美容	32.1	52.1	17.4	14.1	20.8	4.3	3.7	4.8	11.7
映画館	57.4	42.6	24.6	32.8	8.2	3.3	3.3	6.6	4.9
ホテル・旅館	56.9	19.7	45.7	39.4	8.0	4.3	5.9	3.7	4.3
公衆浴場	50.0	33.9	4.5	51.8	8.0	10.7	2.7	6.3	5.4
クリーニング	53.3	49.4	10.0	22.0	26.6	4.6	3.1	2.7	4.2

(注) 複数回答(2つ以内)のため合計は100を超える。

## IV 業況判断理由

今期：2023年4～6月 来期：2023年7～9月

### (1) そば・うどん

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	和歌山県	コロナが5類に移行したことで、人流が回復し、店内も賑わうようになった。5月以降はインバウンド需要も増加傾向にある。
	不変	秋田県	売上は伸びているものの、仕入価格等が高騰しており、業況が回復した実感はない。
来期	好転	京都府	コロナが落ち着き、このまま人流が回復してくれば、客数が増えるだろう。
	不変	富山県	5月の連休以降、客足は戻りつつあるが、仕入価格や光熱費等の負担は増加しており、現状維持で精一杯である。

### (2) 中華料理

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	埼玉県	コロナの5類移行を機に、客足が戻りつつある。宴会需要も増加に転じ、売上は徐々に伸びている。
	不変	滋賀県	コロナは収束しつつあるが、物価上昇の影響により、消費者が外食を控えており、客数・客単価ともに回復していない。
来期	好転	愛知県	街中華ブームが続いている。また、コロナが5類に移行し、観光客も増加傾向にある。
	悪化	兵庫県	コロナが収束し、客足の回復はみられるが、物価や人件費の高騰により、厳しさが増しており、先行きに不安がある。

(3) すし

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	石川県	旅行者や宴会需要が増加し、業況は回復傾向にある。
	悪化	鹿児島県	インバウンドを含め客足は回復しているが、原材料等の値上げにより、負担は増加している。人手不足も深刻化しており、解消する目途が立たない。
来期	好転	新潟県	旅行者の団体予約が増加している。また、法事やお祝い事での利用が回復しており、地元客の増加も見込まれる。
	不変	和歌山県	家飲み慣れたためか、外食の機会が少なくなっていると感じる。当面、厳しさは続くと思われる。

(4) 料理

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	長崎県	行楽シーズンで、県外の観光客が増加した。ランチ需要だけではなく、夜の会席の予約もあり、客数・客単価ともに増加した。
	不変	茨城県	行楽や各種イベント用の仕出し等のほか、ランチ需要を中心に客数は安定してきた。一方で、原材料費や光熱費等の上昇を価格転嫁できていないため、期待どおりの利益確保はできていない。
来期	好転	岡山県	観光客の会席需要が回復してきている。お盆や夏休みに向けて、需要が高まると見込んでいる。
	不変	愛媛県	仕入価格を含めた物価全般の高騰により、売上が上がっても利益につながらない。

(5) 喫茶

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	佐賀県	コロナが5類に移行したことで、平日の客足が戻りつつある。土日祝日も、県外からの観光客が増えてきた。
	不変	徳島県	新規客は増加傾向にあるものの、珈琲豆の仕入価格等が高騰しており、利益確保は厳しいままである。
来期	好転	三重県	来期は、地域の夏祭りや野外イベント等が開催されるため、常連客のほか、帰省客や観光客の増加が期待できる。
	不変	宮城県	来客数の増加を見込んでいるが、仕入価格や電気料金の高騰により、収益改善は期待できない。

(6) 社交

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	兵庫県	コロナが収束し、夜の繁華街が賑わいを取り戻すなか、客足は少しずつ回復してきている。週末に満席になる日も増えてきた。
	不変	福岡県	少しずつ客数が増えているが、新規客は少なく、回復にはまだ時間がかかりそう。
来期	好転	香川県	コロナが5類に移行したことで、夜の繁華街の人出も増え、常連客が戻りはじめている。お盆や夏休みの需要増加を期待している。
	不変	青森県	団体客は増えているが、電気料金や原材料費が上昇しており、現状維持となるだろう。

(7) その他飲食

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	岩手県	コロナが5類に移行したことや、口コミにより客数が増えた。また、アルコールの注文が増え、客単価も上がっている。
	不変	宮城県	コロナも落ち着き、客数は増加傾向にあるが、原材料費の上昇を価格に転嫁できておらず、利益率がかなり低い。
来期	好転	長野県	団体客の予約が回復している。お盆や夏休みにより、更に好転することを期待している。
	不変	島根県	物価高騰の影響で、消費者の財布の紐は固くなり、客数の確保が難しくなるだろう。

(8) 食肉

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	岡山県	小売部門の客数が増加した。特に、若い世代が増え、キャンプなどアウトドア関連の需要が増加している。
	不変	群馬県	卸売部門を中心に受注が増えているが、物価や光熱費の高騰の影響が大きく、利益確保に苦労している。
来期	好転	福岡県	飲食店向けの卸売需要は徐々に回復している。小売部門も、焼肉セットや自家製の総菜などは、旺盛な需要が続く見通し。
	悪化	新潟県	豚肉の枝肉相場が高騰しているうえ、資材や光熱費等の負担も増加しており、更に厳しくなるだろう。

(9) 食鳥肉

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	兵庫県	コロナが落ち着き、卸売部門の注文数が増加。新規の得意先も増え、順調に回復している。
	悪化	埼玉県	鳥インフルエンザの影響で仕入価格が高騰した。売上が伸びても利益は減少し、厳しい状況。
来期	不変	神奈川県	売上の増加は見込めるが、電気料金の値上げ等があり、採算の悪化が予想される。業況は今期と変わらないだろう。
	悪化	東京都	光熱費や仕入価格の上昇が続くと予想されるため、業況は厳しくなるだろう。

(10) 氷雪

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	神奈川県	社交飲食店向けの売上は低迷が続いているが、居酒屋向けの売上が大きく伸び、業況が好転した。
	好転	長崎県	コロナが5類に移行したことで、社交飲食店からの受注が回復した。イベント用のかき氷需要も伸びている。
来期	好転	東京都	来期は、イベント等の需要増加が見込まれる。特に、今年はコロナが5類に移行したため、更なる需要増加を期待している。
	好転	新潟県	かき氷の需要が最盛期を迎え、コロナ前の水準まで回復する見通し。飲食店向けの需要回復への期待も大きい。



(11) 理容

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	京都府	新規客が少しずつ増えている。また、コロナ禍ではカットのみが多かったが、総合調髪ご注文が増え、客単価が上昇している。
	不変	青森県	客数は増えたが、仕入価格や光熱費の高騰により、採算面は変わらない。
来期	好転	岐阜県	コロナが5類に移行し、コロナ禍以前の日常を取り戻しつつある。これから暑い季節になるので、来客数が増えることを期待している。
	悪化	三重県	電気料金の値上げが続くので、営業経費が利益を圧迫し、厳しい状況になるだろう。

(12) 美容

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	沖縄県	地元客の戻りに加え、外国人を含む観光客の来店も増えている。
	不変	静岡県	コロナで減少していた客足が徐々に回復してきているが、カット中心で客単価は伸びない状態が続いている。
来期	好転	高知県	イベント等の開催が増え、着付けやヘアセットの注文が増えてきた。今後も結婚式の着付け等、需要が高まっていく見通し。
	不変	鳥取県	コロナが落ち着き、客足は戻りつつあるが、光熱費等の諸経費が高騰しており、本格的な回復とはならないだろう。

(13) 映画館

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	東京都	コロナによる入場制限がなくなり、コロナ前と同様に営業することができた。人気作品に恵まれたこともあり、興行収入は大幅に増えた。
	好転	岡山県	GW期間中にヒット作の上映ができた。それ以外の時期も客席の稼働率は7割を超える状況で、昨年度との違いが鮮明になった。
来期	好転	山梨県	夏休みの上映作品に期待ができる。入場制限が緩和された効果もあり、来期への期待は大きい。
	不変	京都府	人件費や仕入価格の高騰により、来館客数は増えても、採算面の先行きは厳しいだろう。

(14) ホテル・旅館

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	福井県	全国旅行支援の効果により、県外からの宿泊客が増えている。また、入国制限の緩和でインバウンドも増加し、連泊も多くなっている。
	不変	香川県	コロナが落ち着き、外国人観光客の予約も増えてきているが、スタッフ不足のため予約数を制限しながら丁寧に対応している。
来期	好転	富山県	コロナが5類に移行し、行動制限が大幅に緩和されたことで、インバウンドを含め観光客の宿泊需要が盛り上がることに期待している。
	不変	北海道	コロナの感染状況は落ち着いており、当期並みの水準は見込めるが、経費が増加しているため、好転は難しい。

(15) 公衆浴場

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	東京都	コロナの影響で入浴客は減ったものの、サウナブームにより若者客が増えている。
	不変	和歌山県	コロナの影響は落ち着いてきているが、燃料代や電気代の負担が増加しており、採算は変わらない。
来期	不変	長崎県	サウナブームが続き、若者の利用が増えたが、燃料費や冷房用の電気料金の高騰が続く見通しであり、現状維持が精一杯。
	悪化	愛知県	サウナブームで新規の若者客が増えているが、常連客は家計負担が増加したことで入浴回数が減る傾向にある。燃料費や光熱費も高騰しており、採算面の厳しさが増すだろう。

(16) クリーニング

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	大分県	春の行楽シーズンを背景に、外出着の洗濯需要が安定している。飲食店やホテルの業務用ユニホーム等の受注も増加した。
	悪化	広島県	物価高騰の影響もあり、衣替え需要が減少した。また、業務用の受注も価格競争が厳しくなり、利益を確保することが難しい。
来期	不変	山形県	売上増加の兆しはあるが、光熱費等の高騰により、業況が改善するとは言えない。
	悪化	大阪府	夏場は閑散期にあたるため、客数が減るだろう。また、石油系溶剤やビニール保管資材などの高騰、電気料金の値上げが続いており、対策が見いだせない。